

## 「クリスマス文化」を越えて

主教 植田仁太郎

クリスマスというものが世の中で受け容れられて、友人同士や家庭での楽しみの機会となっていることは、大変うれしいことです。私たちの知っている、クリスマスにまつわるすべての事柄を、私は「クリスマス文化」と呼んでいます。あらゆるクリスマスの飾りも、ケーキもプレゼントも、カードもクリスマス・キャロルも——これらすべては、イエス・キリストの誕生をお祝いする習慣の中で、世界各地で、人々が生み出してきた「文化」です。サンタクロースという、クリスマス・キャラクターも生み出しました。これも文化の一部です。

この文化が表現しようとしていることは、言うまでもなく、喜び、平和、思いやり、尊さ、などで、人間なら誰もそのことの大切さに異を唱えないでしょう。だからこそ、社会のあらゆるレベルで祝われるのでしょう。

教会は、そのことを一方で歓迎しつつ、他方では、いつもその「文化」を越えて、クリスマスの真実を呈示しようと苦勞しています。その真実のひとつは、喜び・平和・思いやり・尊さは、イエス・キリストの苦しみと自己犠牲の結果としてもたらされる、ということでしょう。

クリスマスを一緒に祝いましょうと、招かれている私たちは、同時に、いつも、他の人のために苦勞できる人になりましょう、という風にも、呼びかけられています。